の算出，2. 全身像にて軟部組織に対する RI 集積比を計測し画像再構成する方法を用いた．関節集積の対軟部組織集積比は，治療経過を追跡し得た症例で検討したが，臨床症状等との相関をみた．

12. Von Gierke に併発した hepatoblastoma 2 例のシンチグラム

中村　恵彦　　兼平　二郎　　渡辺　俊明
西沢　一治　　篠崎　達世　　（弘前大・放）

Von Gierke 病に併発した hepatoblastoma 2 例のシンチグラム所見について考察した．一例めは，肝シンチで hot な集積を示したが，Ga-67 で同部に集積は見られなかった．他の一例は上記所見とは逆に，肝シンチで欠損を示し，Ga-67 で hot な集積を認めた．組織所見では前者は成人の hepatoma に近い hepatoblastoma の高分化型であり，後者は低分化型であった．tumor 内の Kupffer 細胞の量にはきわだった差は認められなかった．Ga-67 シンチでは，従来知られている hepatoma の組織型による集積態度とは異なっており hepatoblastoma のシンチ読影上注意が必要であると思われた．一方成人の hepatoma できわめてまれに肝シンチ上集積の見られる場合があり，これら肝シンチ，Ga-67 の集積態度の差は hepatoblastoma の組織型の違いによる可能性が示唆されたが症例が少なく断定はできなかった上記シンチグラム所見の解離に関しては原因は不明であった．

13. 甲状腺以外の各種腫瘍における ^{201}Tl delayed scan の意義

西沢　一治　　中村　恵彦　　真里谷　靖
渡辺　俊明　　篠崎　達世　　（弘前大・放）

骨（以下 BT）および軟部組織腫瘍（以下 ST）74 例に ^{201}Tl スキャンを施行し，陽性率，良性悪性の鑑別および delayed scan の意義について検討した．陽性率は 74 例中 52 例，70％で，良悪性別では良性 64％，悪性 93％と悪性腫瘍の陽性率が高かったが，陽性率での両者の鑑別は有用ではなかった．組織別では，BT では良性 50％，悪性 100％と両者に差を認めたが，ST では良性 77％，悪性 89％で有意の差はなかった．^{67}Ga はこれとは逆に，BT において良性 50％，悪性 57％と差はなく，ST では良性 33％，悪性 75％と有意差を認め ^{201}Tl と ^{67}Ga の集積機序の違いを示唆した．

^{201}Tl delayed scan は 12 例に施行し，悪性 3 例は全例とも残存（＋）であったが良性でも 9 例中 5 例（56％）に残存を認め，残存による悪性診断は困難であり，むしろ残存を認めない場合に良性腫瘍と診断する方に意義があるように思われた．

14. 慢性閉塞性肺疾患におけるエロソール沈着様式の定量的解析

手島　建夫　　井沢　豊春　　平野　富男
蝦名　昭男　　白石晃一郎　　今野　　淳
（東北大抗研・内）

これまで報告してきた画像の不均一さを定量化する手法を用いて，エロソール吸入肺スキャン画像での，いわゆる正常型，末梢型，中心型と呼ばれているエロソール沈着様式の定量的識別を試みた．中心型では肺門部の過剰沈着の他に，肺末梢に多数のホットスポットが形成されている．言い換えれば末梢型沈着に肺門部沈着が加わった状態と考えられる．これは通常のポラロイド写真の撮像条件では肺門部のカウントが強すぎて観察することができない．また末梢型が慢性気管支炎に特徴的であり，中心型が肺気腫に特徴的とすれば，現在慢性閉塞性肺疾患に含めてひとまとめに考えられている両疾患を，慢性気管支炎が移行して肺気腫になると，画像診断上定義することもできるように思われた．しかし，この点に関してはいまだエロソールの沈着と肺疾患の対応が解明されているとは言えず推察の域をでることはできない．

15. 気道粘液線毛輸送系の評価法と簡便法

井沢　豊春　　手島　建夫　　平野　富男
蝦名　昭男　　今野　　淳　（東北大抗研・内）

放射性エロソール吸入肺シネシンチグラフィーの実用化で，各胸部疾患の Mucociliary clearance 動態が視覚的にも定量的にも次第に明らかになった．ことに，すでに発表したわれわれの簡便法を用いると，エロソール吸入直後 60 分だけの計測から，肺内残留率（LRR）を求め，

Presented by Medical*Online